

内科医 つれづれ草

高山浩一

医学部の学生は首尾よく医師国家試験に合格し医師免許証を交付されると、晴れて医師となります。ただ、試験に合格したといっても1人では何もできないのが実情です。診察の仕方、採血の方法と、指導医に習いながら一つずつ覚えていかねばならないのです。

研修医の争奪戦

そこで最初の2年間は臨床研修センターに所属し、医師として必要な知識、技術、態度を身に付けるための初期研修を受けることとなります。内科、救急診療、地域医療の必修科目と外科、小児科などを含む必修選択科目を組み合わせて2年間の研修プログラムが作られています。

自分の道どう選ぶか

初期研修を無事に終えると、臨床研修修了証が交付され、3年目からはよいよ自分が専門とする領域へ進むこととなります。迎える側のわれわれは、1人でも多くの研修医に呼吸器内科を選んでもらいたいのので、医局の勉強会や時には懇親会にも誘って呼吸器内科をアピールします。

しかし、他の医局も同様に勧誘活動を行いますから、研修2年目になると争奪戦の様相を呈してきます。行き先を迷っている研修医が最終的に当科を選ん



イラスト・山本重也

でくれた時にはスタッフと祝杯を挙げますが、残念ながら他科に行ってしまった場合は、何が足りなかったのか反省会になります。

内科の中で呼吸器内科は循環器内科、消化器内科と比較されることが多いのですが、それぞれの医学会の会員数から見ると、呼吸器内科医に比べ循環器内科医は2倍以上、消化器内科医は3倍以上います。結果的に呼吸器内科医が不足する傾向にありますので、研修医には呼吸器内科診療の魅力と重要性をアピールし続けています。

医師像が頭にあったわけではなく、医局の雰囲気良かったからというような少々軽い理由だったように思います。

実際にいろんなきっかけがあります。部活の先輩がいたからという話はよく聞きますし、手塚治虫のフラックジャックに憧れて外科医になった先生もいます。ただ、自分が選んだ道後悔しているという先生に会ったことがありません。

病める人を救うという目的は一緒ですから、きっかけはさまざまでも、多くの先生は自分が選んだ診療科を天職だと思えるのでしよう。研修医の先生方には充実した研修生活を送ってほしいと願っています。

(京都府立医科大学教授)